

# 「鏡石町第5次総合計画」策定



町では、『かわる、かがやく、“牧場の朝”のまち かがみいし』をまちの将来像とし、その実現に向けて、震災を契機として、町民相互の「絆」の大切さを「やさしさとふれあい」と一歩先を目指す「復興と進化」をまちづくりの基本理念に、「がんばろう かがみいし！ 総合的な復興と新たな飛躍に向けて」を基本目標とし、5つの行政分野別目標を掲げ、分野横断的な視点で、さらに東日本大震災からの「復興計画」として、「鏡石町第5次総合計画」を策定しました。

**目標Ⅰ 町民と力を合わせて築く、新しい鏡石**  
 町民参加と行財政運営分野

地方分権の進展や経済社会のグローバル化などの社会経済の変化に柔軟に対応する視点から、また、東日本大震災からの復興の観点も含めて、基本的な行政課題に取組みます。

また、町民や企業・団体の皆さんと協働した取組みを進める一方で、各種の行財政改革を継続・強化して、これまでの良さを大切にしつつ、力強く震災から立ち直った新しい鏡石づくりを目指します。

**目標Ⅱ 心豊かな人を育て、地域文化を大切にする鏡石**  
 教育・スポーツ・健康づくり、文化振興分野

明日を担う子どもたちへの質の高い教育機会の提供、現在も活発なスポーツ活動のさ

らなる振興、地域ならではの文化の保全・継承と新たな文化づくりなど、教育・文化関連施策の充実に努めます。

**目標Ⅲ 地域で支えあう、人にやさしい鏡石**  
 福祉・安心安全・コミュニティ形成分野

少子高齢化が進行する中にもあっても、だれもが安心して地域社会で暮らし続けていけるような「ノーマライゼーション」の考え方を基本に、地域や事業者と行政が連携して、町民ニーズにあった福祉・保健・医療サービスを安定的に提供することに努めます。

また、防災をはじめ、交通安全対策、防犯、消費者の保護など、多岐にわたる「安心・安全社会づくり」、互いが支えあい生き生きと暮らせる「共生のコミュニティづくり」を進めます。

**目標Ⅳ 新しい産業を开花させ、活力あふれる鏡石**  
 産業振興分野

震災で大きな被害を受けた産業を、再生・復興させることに注力します。

また、既存企業の操業を多角的観点から支援するとともに、企業誘致により、町の活性化と就業機会の創出・拡大を図り、本町ならではの地域

**目標Ⅴ 快適に暮らせ、住んでみたくなる鏡石**  
 都市整備・都市開発分野

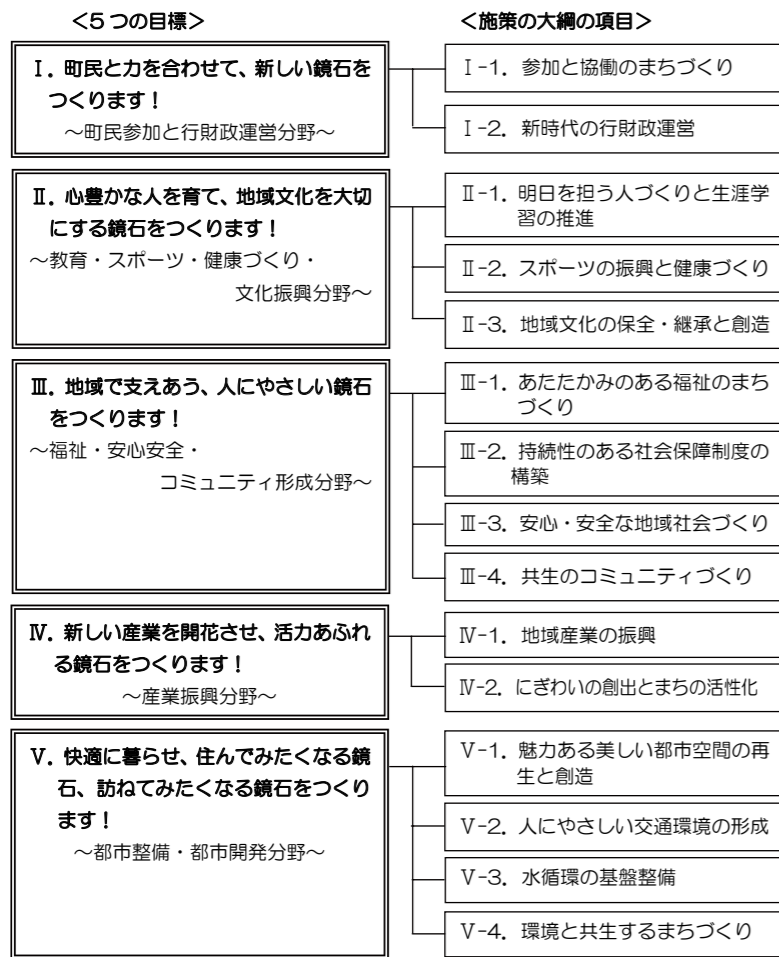
資源を活用して、新しい産業の創造や観光の振興などを図ります。

震災で被害を受けた都市空間の再生を図るとともに、復興の過程で、従来にも増して魅力的で、住んでいることが

誇れるような、そして町外から人をひきつけるような都市づくりを図ります。その際には、自動車利用に過度に依存しない、歩行者や自転車、公共交通を重視した取組みを重視します。

また、地球環境問題やエネルギー問題に対応するため、多角的な視点で環境と共生するまちづくりを進めます。

## 施策の大綱の構成



### 【総合計画とは】

町が進める行政施策の総合的・基本的な計画です。町の定める各種の計画や、施策や事業を実施するうえで、の最上位の指針となります。

### 【計画の構成と目標年次】

- 基本構想  
目標年次 平成33年度
- 基本計画  
前期基本計画(今回策定) 平成24年度～平成28年度  
後期基本計画(予定) 平成29年度～平成33年度

### 【総合計画策定のあゆみ】

「第5次総合計画」の策定には、町民の意見を把握するため、町民参加の場として設置されたまちづくり委員会や町民意識調査(アンケート調査)などを通じて、広く町民の皆さんの意見を取り入れ、原案づくりを進めてきました。

- 町民意識調査(平成23年1月～2月)
- 満20歳以上の町民二千人を対象にアンケート調査を

実施しました。

- まちづくり委員会(平成22年11月～平成23年8月)
- 未曾有の大災害を乗り越え、笑顔にあふれ進化する鏡石の将来を築いていくため、テーマ毎に7回にわたり検討し提言をいただきました。
- パブリック・コメント(平成22年3月～平成23年3月)
- 2回実施し、各公共施設に設置した意見箱やホームページにより広く意見をいただきました。
- 総合計画等審議会(平成24年2月)

町長からの諮問を受け、3回にわたり慎重に審議し、基本構想案に対し意見を付して答申を受けました。

